

中径パイプ・形鋼の高精度、高速加工を実現する レーザ加工機”FT-250”

ヤマザキマザック株式会社(代表取締役社長:山崎高嗣、本社:愛知県大口町)は、 $\phi 254\text{mm}$ 以下のパイプ材および 203mm までの形鋼の高速加工に対応する 3 次元レーザ加工機「FT-250」を開発しました。2025 年 12 月 3 日から当社美濃加茂製作所 第一工場/ワールドテクノロジーセンタで開催するプライベート展示会 DISCOVER2025 に出展し、販売を開始します。

当社は 2019 年に、小径パイプ量産加工向け「FT(エフティー)-150」を発売し、ドリルやタップ加工に加え、搬入・搬出装置による連続加工により、生産リードタイム短縮と省人化を実現してきました。今回開発した「FT-250」は、中径パイプや形鋼に対応領域を拡大したモデルです。各地で建設ラッシュが続くデータセンタや物流倉庫などの建築部材をはじめ、物流設備や輸送機器などの幅広い鋼材加工の需要に応えます。

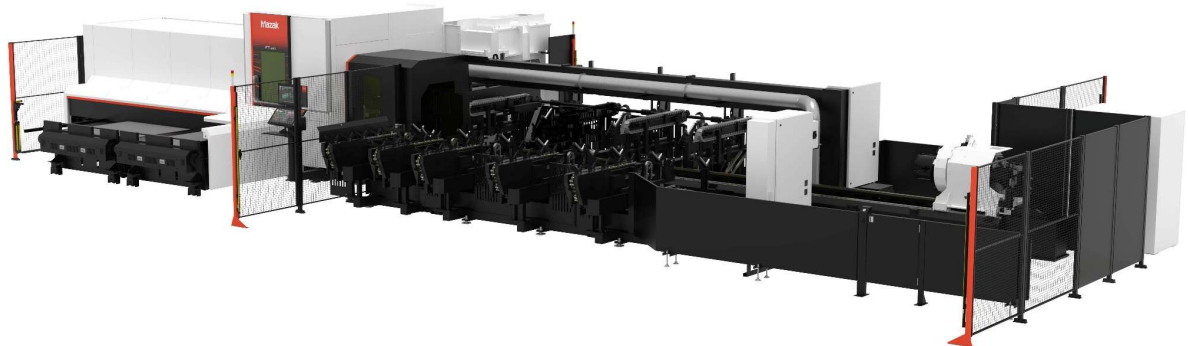
3 次元レーザヘッドが材料と並行に移動する軸構成を採用、材料を固定したまま多方向からの加工が可能であり、材料移動に伴う振動を抑えることで切断面の品位と加工精度を高めます。またレーザヘッドと材料の移動を同期させることで高速加工も可能です。

材料搬入はパイプ材の量産向けの「バンドル式ローダ」に加え、多品種少量生産向けに形状の異なる材料を収容できる「V サポートコンベヤ式ローダ」(オプション)を展開しています。材料交換による段取り替えの工数を削減し、長時間の連続運転を可能にします。

回転工具ユニット(オプション)は加工能力を高め、M16(軟鋼はM20)までのタップ加工を実現し、最大 13 本の工具収納により多品種少量生産にも柔軟に対応します。

当社は今後も、生産性向上に貢献する機能・技術開発を進め、鋼材加工における課題解決に取り組んでまいります。

【FT-250 外観】



オプション仕様を含む